

ニューズレター

第45号

ごあいさつ

日本音楽療法学会北海道支部長 近藤里美

はじめに、令和6年能登半島地震でお亡くなりになった方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。また、被災者の救援、被災地の支援にご尽力くださっています方々に深く敬意を表します。

さて、昨年の11月26日、雪が降りしきる厳しい寒さの中、第43回北海道支部大会が開催されました。少人数での対面開催の利点を最大限に活かしながら、「互いに学びあう」ことに焦点を当て、様々な楽器や小物を使いながら皆さんで和気藹々と活気溢れる時間を過ごしました。小グループでの演習および全体でのプレゼンテーションでは、実践に繋がる様々なアイデアを学びあったり、緊張の中にもユーモアたっぷりのロールプレーをしたり、リラックスした雰囲気の中で活発なフィードバックがありました。参加された方々にとって、ご自身の実践に対する考えや姿勢について、楽しく体験的に考える機会になったのではないのでしょうか。

その後、支部評議員会では、今年度の支部活動を振り返りながら、来年度の活動について話し合いました。特に、今年9月に札幌で開催される第24回日本音楽療法学会学術大会を見据えて、特に以下の2点を軸に議論しました。

- 1) 多くの北海道会員の皆様が学術大会に参加していただけることが重要であること
- 2) 全国から多くの方々に来てもらえる魅力ある学術大会の企画準備が必要であること

私たち北海道民にとっては、7年ぶりとなる地元開催の学術大会です。本州開催の大会に比べて移動費の負担が軽減され、多くの研究者や実践家と学び合うことができる貴重な機会であり、なんと言っても日頃の実践や研究成果を発表する絶好のチャンスとなります。学術大会は、もちろん学際的にも重要ですが、同時に、新たな人たちと出会い、繋がり、語り合うという楽しいお祭りでもあります。毎年1,000名を超える参

加者が集う学術大会ですが、特に本大会は対面を基本としておりますので全国からたくさんの方々の来札が予想されます。ぜひ多くの北海道支部会員の皆様に参加していただきたいと考えています。

今回の学術大会担当となった北海道支部では、評議員を中心に11名の実行委員会を組成しました。小規模な委員会のため、各実行委員のそれぞれの強みを生かしてアイデアを出し合いながら進めています。現在、学会本部および学会運業者さんと報告、連絡、相談をしながら、魅力ある大会開催の実現に向けて全勢力を注いでいるところです。今後は、北海道支部の会員の皆様にもご協力をお願いすることが多々あると存じます。

以上の点を総合的に判断した結果、支部評議員会では2024年度の春の支部大会を第24回日本音楽療法学会学術大会に振り替えることを提案させていただきます。特に北海道支部会員の皆さまにおかれましては、学術大会への参加、および演題発表を積極的にお考えいただけますようよろしくお願い申し上げます。

これに伴いまして、2024年度の総会につきましても、引き続き書面議決とさせていただきます。どうか、会員の皆様にはご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、現在、北海道支部ホームページには、第24回学術大会のホームページのパナーが掲載されています。こちらをクリックすると、大会に関する全ての最新情報を入手することができますので、ぜひご確認くださいませようよろしくお願い申し上げます。



2024年北海道支部総会について

事務局長 下出理恵子

支部会員の皆様におかれましては、いつも支部活動・運営にご支援とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

2024年度の総会は、支部長のご挨拶にもありますように会員の皆様へ総会資料と書面表決書を郵送し、書面議決とさせていただきます。

総会（書面議決）の成立には、会員の皆様の過半数の書

面表決書のご提出が必要となります。また、総会の議決は提出された書面表決書の過半数の承認をもって可決となります（支部会則9条の2）。どうか会員皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。なお、決議の結果につきましては、集計が終了次第に、北海道支部ホームページにてご報告させていただきます。

